

愛媛県県立学校振興計画（案）の概要

1 県立高校及び県立中等教育学校を取り巻く課題

(1) 生徒数の減少と学校の小規模化

- 本県の全日制県立高校及び中等教育学校（以下、「県立高校等」という。）の在籍生徒数は、中学校卒業生数の減少に伴い、平成2年度の約5万3千人から令和3年度の約2万4千人へと、約3万人減少（中等教育学校前期課程を除く。）。
- 一方でこの間、本県の全日制県立高校等の数は、57校から55校と2校しか減少しておらず、結果として、学校の小規模化が著しく進行。
- 生徒が、より高い目標を達成できる充実した教育環境を実現するため、各地域内に一定規模以上の生徒数を擁する学校を配置する必要があり、学校の統合を視野に入れた、再編整備を進める必要がある。

(2) 社会の変化と生徒の多様化

- グローバル化や情報化が急速に進み、業種の枠を越えた競争が行われ、産業構造や就業構造が急激に変化。
- 学校には、地域と連携しつつ、社会の課題や解決方法等について、「自ら考える姿勢」や、広い視野を持って何事にも主体的、協働的に取り組み、人生を「自ら切り拓いていける力」を備えた人材の育成が期待される。
- 中学校卒業生が高等学校等に進学する割合が99%を超えている状況の下、本県の県立高校等でも、様々な進路希望、能力・適性、興味・関心を持つ生徒が在籍。
- 個別最適な学びの推進を軸として、生徒のニーズに合わせた多彩な学びの形態を提供できる体制づくりを進めるとともに、課程や学科等の改編等により、魅力ある学校づくりを進める必要がある。

2 振興計画の内容

(1) 再編整備基準（詳細はP.12「再編整備基準」のとおり）

○適正規模

- ・ 1学年3学級～8学級を基本（3学級を下回る学校は、原則、募集停止）

○魅力化推進校（地域への配慮）

- ・ 3学級を下回る学校について、市町や地域から学校の存続のために必要と思われる支援が得られる学校を、1市町につき1校に限り、「魅力化推進校」に認定できる。
 >市町に唯一の学校 >島しょ部の学校 等

○募集停止

3学級以上の学校	魅力化推進校
3年連続 80人 以下	3年連続 30人 以下
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">魅力化推進校に該当しない場合</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">魅力化推進校に該当する場合</div> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">魅力化推進校</div>
募集停止	募集停止
規模を縮小し <u>魅力化推進校</u> として存続	

(2) 学校魅力化の在り方

ア. 職業系学科の魅力化

職業横断的学習を通して、地域経済の振興に役立つ、産業人材の育成を図る。

また、既存の異なる大学科（農業科、工業科、商業科等）を1校に集約した「産業科学高校」を西条市に設置するとともに、職業系学科を持つ全ての学校において普通系学科を含めて多彩な職業系学科を連携させ、学科横断的学習を実施する。

イ. 普通系学科の魅力化

地域のニーズや生徒の実態を踏まえ、理数情報、情報マネジメント、スポーツ、教員養成、社会共創、国際など特色ある学科・コース・系列を設置し、多彩な学びの形態を提供できる体制づくりを進める。

ウ. 進学指導の強化

「進学指導強化モデル校」を設置し、高い進学目標を持った生徒が地域で学ぶことができる体制を整える。モデル校については、学校間の適度な競争関係を維持するため、各地域の実情や将来像等を踏まえながら数年ごとに検討し、県の学力向上関係事業において指定する。

エ. 総合学科

県立高校等における総合学科の特色や成果を踏まえ、これまでの3校から6校へ拡充する。地域のニーズや生徒の実態を踏まえ、文理探究、社会共創、国際、情報など、特色ある系列を設置することで、より進学に強い総合学科に変更し、生徒の高い進路目標を実現できる学校にする。

オ. 中等教育学校

これまでの取組の成果等を踏まえ、今治東中等教育学校にスポーツコース、松山西中等教育学校に国際コースを設置するなど、更なる魅力化を図る。

一方で、中等教育学校の設置から20年近くが経過し、取り巻く環境が大きく変化している中で、宇和島・南宇和地区の児童・生徒数の大幅な減少や地域協議会での意見等を踏まえた検討を行った結果、宇和島南中等教育学校を募集停止とし、新たに宇和島南高校（仮称）を設置する。

カ. 定時制課程・通信制課程

全日制課程の北条高校を、昼間の午前と午後を選んで学べる昼間二部定時制と通信制の課程を併置した愛媛風早高校（仮称）に改編し、多様な生徒に応じた、自由で柔軟な学びを実践する。その学校には、小規模校等への授業配信拠点としてのセンター機能を整備する。

3 振興計画の状況に応じた検討

振興計画については、今後の中学生の進路状況や地域の状況、社会状況の変化などを踏まえ、適宜、検討を加える。

4 振興計画の実施

振興計画の実施のため、統合等の対象となった県立高校等のまとまりごとに、市町行政や地域住民などを含めた準備委員会を設置し、具体的な準備を進める。

5 振興計画の期間

令和5年度から令和14年度までの10年間

- 57 > 前期計画 (令和5～9年度) : 統合する学校名などを具体的に示す
- 57 > 後期計画 (令和10～14年度) : 再編の方向性を大まかに示す

6 各地区の概要

- ▶提示する学級数は、今後の中学生の進路状況や地域の状況などを踏まえ、適宜、検討を加える。
- ▶統合校の学校名や、各校に新設等される学科・コース等の名称・内容等については、令和5年度以降に、これらの学校ごとに設置される準備委員会での協議を経て、正式に決定する。

《四国中央地区》

◆三島（商）に、ICTスキルを経営に生かす「情報マネジメント類型」 [R7]

○ 現状及び前期計画の内容

現状 (R4)			
学校名	学科	学級	定員
川之江	普通	5	200
三島	普通	6	240
	商業	1	40
土居	普通	3	120
R4 定員		15	600

前期計画 (R5～R9)				
学校名	学科	コース等	学級	定員
川之江	普通		5	200
三島	普通		6	240
	商業	商業 情報マネジメント [R7]	1	40
土居	普通		3	120
R9 定員			15	600

○ 後期計画の方向性

入学生数の減少が継続する場合は、学級減を検討する。

《新居浜地区》

◆新居浜東に、健康スポーツ分野でのリーダーを育成する「健康スポーツ科」 [R7]

○ 現状及び前期計画の内容

現状 (R4)			
学校名	学科	学級	定員
新居浜東	普通	7	280
新居浜西	普通	7	280
新居浜南	総合	3	120
新居浜工業	工業	5	200
新居浜商業	商業	4	160
R4 定員		26	1,040

前期計画 (R5～R9)			
学校名	学科	学級	定員
新居浜東	普通	5	200
	健康スポーツ [R7]	1	40
新居浜西	普通	6	240
新居浜南	総合	3	120
新居浜工業	工業	4	160
新居浜商業	商業	4	160
R9 定員		23	920

○ 後期計画の方向性

入学生数の減少が継続する場合は、地区内での統合等により、学校数を5校から4校にすることを検討する。

《西条地区》

◆小松・東予・丹原を再編し、新たに2校設置 [R8]

◇周桑高校（仮称）に、「普通科」の中に、文理探究、教員養成、社会共創など多彩なコースを設置。そして、プログラミングやシステム開発に関する、高度な技術や能力を身に付けた、情報のスペシャリストを育成するとともに、その身に付けた技能を生かして進学を目指す「理数情報科」を設置。校地は小松。

◇西条産業科学高校（仮称）に、「農業科」「工業科」「商業科」「家庭科」を設置。職業横断的学習を通して、地域経済の振興に力を発揮する、産業人材の育成を目指す。校地は東予・丹原。

○ 現状及び前期計画の内容

現状 (R4)			
学校名	学科	学級	定員
西条	普通	5	200
	国際文理	1	40
	商業	1	40
西条農業	農業	3	120
小松	普通	3	120
	家庭	1	40
東予	工業	3	120
丹原	普通	3	120
	農業	1	40
R4 定員		21	840

前期計画 (R5～R9)				
学校名	学科	コース等	学級	定員
西条	普通		5	200
	国際文理		1	40
	商業		1	40
西条農業	農業		3	120
周桑 【R8】	普通	文理探究 教員養成 社会共創	3	120
		理数情報	1	40
西条産業科学 【R8】	農業		1	40
	工業		2	80
	商業		2	80
	家庭		1	40
R9 定員			20	800

○ 後期計画の方向性

入学生数の減少が継続する場合は、学級減を検討する。

《今治・越智地区》

- ◆今治西に、確かな語学力と、グローバルな視野を持った人材を育成する「国際科」 [R8]
- ◆伯方分校・大三島分校を統合し、しまなみ海洋高校（仮称）を設置 [R8]
 - ◇キャンパス制を導入し、進学と、島の特徴を生かした学びを両立させる。校地は伯方・大三島。
- ◆今治東中等に、スポーツ分野でのリーダーを育成する「スポーツコース」 [R8]

○ 現状及び前期計画の内容

現状 (R4)			
学校名	学科	学級	定員
今治西	普通	8	320
伯方(分)	普通	2	60
今治南	普通	5	200
	農業	1	40
今治北	普通	5	200
	商業	2	80
大三島(分)	普通	1	40
今治工業	工業	5	200
弓削	普通	1	40
R4 定員		30	1,180

前期計画 (R5~R9)				
学校名	学科	コース等	学級	定員
今治西	普通		6	240
	国際 [R8]		1	40
今治南	普通		4	160
	農業		1	40
今治北	普通		4	160
	商業		2	80
今治工業	工業		5	200
弓削 (魅力)	普通		1	40
しまなみ 海洋 [R8] (魅力)	伯方	総合	2	80
	大三島	総合		
R9 定員			26	1,040

今治東中等	普通	4	140
-------	----	---	-----

今治東中等	普通	普通 スポーツ [R8]	4	140
-------	----	-----------------	---	-----

※校名下部の(魅力)は魅力化推進校

○ 後期計画の方向性

入学生数の減少が継続する場合は、学級減を検討する。

《松山・伊予・上浮穴地区》

- ◆北条(総合)を改編し、愛媛風早高校(仮称)を設置 [R8]
 - ◇昼間の午前と午後を選んで学べる昼間二部定時制(総合) + 通信制(普通)とし、自由で柔軟な学びの場を提供することで、未来につながる進路を自ら実現できる、新しい形の学校とする。
- ◆東温(普・商)を、文理探究、社会共創、スポーツ、情報マネジメントなど、多彩な系列を持つ、進学にも強い「総合学科」に改編 [R8]
- ◆伊予と砥部分校を統合し、「普通科」「理数情報科」「工業(デザイン)科」 [R8]
 - ◇現在の普通科芸術コースを拡充するとともに、デザイン科を設置することにより、芸術教育の中核校として充実を図る。高大連携のもと教育学部への進学を目指す教員養成コースを新設。普通科・デザイン科・理数情報科の3つの学科が連携した、学科横断的学習を実施することで、アートとサイエンスを融合した新しい教育を実践する。校地は伊予。
- ◆松山中等に、確かな語学力と、グローバルな視野を持った人材を育成する「国際コース」 [R8]

○ 現状及び前期計画の内容

現状 (R4)				前期計画 (R5~R9)						
学校名	学科	学級	定員	学校名	学科	コース等	学級	定員		
北条	総合	3	120	松山東	普通		9	360		
松山東	普通	9	360	松山南	普通		8	320		
松山南	普通	8	320	松山南	理数		1	40		
	理数	1	40		松山北	普通		9	360	
砥部(分)	工業(デザイン)	1	40	中島(分)(魅力)	普通		1	40		
松山北	普通	9	360	松山中央	普通		9	360		
中島(分)	普通	1	40	松山工業	工業		8	320		
松山中央	普通	9	360	松山商業	商業		9	360		
松山工業	工業	8	320	東温	総合 [R8]	文理探究 英語理解 社会共創 スポーツ 医療福祉 生活科学 情報マネジメント	9	360		
松山商業	商業	9	360							
東温	普通	6	240							
	商業	2	80							
上浮穴	普通	1	30	上浮穴(魅力)	普通		1	30		
	農業	1	30	上浮穴(魅力)	農業		1	30		
伊予農業	農業	6	240		伊予農業	農業		6	240	
伊予	普通	5	200	伊予	普通 芸術クリエーション 教員養成 [R8]	5	200			
R4 定員	79	3,140	理数情報 [R8]						1	40
			工業 [R8] (デザイン)						1	40
			R9 定員		78	3,100				
松山西中等	普通	4	160	松山西中等	普通 国際 [R8]		4	160		

※校名下部の(魅力)は魅力化推進校

- 後期計画の方向性
入学生数の減少が継続する場合は、学級減を検討する。

《大洲・喜多地区》

◆大洲・大洲農業を統合 [R7]

◇普通科、商業科、農業科を設置して、学科横断的学習を実施する。校地は大洲・大洲農業。

○ 現状及び前期計画の内容

現状 (R4)			
学校名	学科	学級	定員
大洲	普通	4	160
	商業	1	40
大洲農業	農業	2	80
長浜	普通	2	60
内子	普通	3	120
小田(分)	普通	2	60
R4 定員		14	520

前期計画 (R5~R9)			
学校名	学科	学級	定員
大洲	普通	3	120
	商業	1	40
	農業 [R7]	2	80
長浜 (魅力)	普通	2	60
内子	普通	3	120
小田(分) (魅力)	普通	2	60
R9 定員		13	480

※校名下部の(魅力)は魅力化推進校

○ 後期計画の方向性

入学生数の減少が継続する場合は、地区内での統合等により、学校数を4校から3校にすることを検討する。

《八西・西予地区》

◆八幡浜・八幡浜工業・川之石を統合し、八幡浜高校(仮称)設置 [R8]

◇普通科、商業科、工業科、総合学科を設置して、学科横断的学習を実施する。校地は八幡浜・八幡浜工業・川之石。

◆宇和(普・農)を、文理探究、情報マネジメント、生物工学など、多彩な系列を持つ、進学にも強い「総合学科」に改編 [R8]

○ 現状及び前期計画の内容

現状 (R4)			
学校名	学科	学級	定員
八幡浜	普通	4	160
	商業	1	40
八幡浜工業	工業	2	80
川之石	総合	3	120
三崎	普通	2	60
宇和	普通	2	80
	農業	1	40
三瓶(分)	普通	2	60
野村	普通	2	80
	農業	1	40
R4 定員		20	760

前期計画 (R5~R9)				
学校名	学科	コース等	学級	定員
八幡浜 [R8]	普通		4	160
	商業		1	40
	工業		1	40
	総合	農業 福祉	1	40
三崎 (魅力)	普通		2	60
宇和	総合 [R8]	文理探究 情報マネジメント スポーツ 生物工学	3	120
野村 (R6 魅力)	普通		1	40
	農業		1	40
R9 定員			14	540

※校名下部の(魅力)は魅力化推進校

○ 後期計画の方向性

入学生数の減少が継続する場合は、地区内での統合等により、学校数を4校から3校にすることを検討する。

《宇和島・南宇和地区》

- ◆宇和島東・津島分校を統合 [R7] 校地は宇和島東
- ◆北宇和・三間分校を統合 [R7] 校地は北宇和
【三間分校(農業機械)の機械分野は吉田(工)が継承】
- ◆宇南中等(前期)を募集停止 [R6]
宇南中等(後期)・宇和島水産を統合し、宇和島南高校(仮称)を設置 [R9]
◇国際、情報など多彩な系列を持つ総合学科と、水産科を設置する。校地は宇南中等・宇和島水産。

○ 現状及び前期計画の内容

現状 (R4)				前期計画 (R5~R9)					
学校名	学科	学級	定員	学校名	学科	コース等	学級	定員	
宇和島東	理・普	4	160	宇和島東	理・普		4	160	
	商業	3	120		商業		2	80	
津島(分)	普通	2	60	宇和島南 【R9】	総合	文理探究 国際 情報 スポーツ	3	120	
宇和島水産	水産	3	105						
吉田	普通	2	80						
	工業	2	80						
北宇和	普通	2	80	吉田	水産		2	60	
	農業	1	40		普通		1	40	
三間(分)	普通	1	30	北宇和 (R9 魅力)	工業		2	80	
	農業	1	30		普通		1	40	
南宇和	普通	3	120	南宇和	農業		1	40	
	農業	1	40		普通		2	80	
R4 定員			25	R9 定員				19	740

宇和島南中等	普通	4	140
--------	----	---	-----

※校名下部の(魅力)は魅力化推進校

○ 後期計画の方向性

入学生数の減少が継続する場合は、地区内での統合等により、学校数を5校から4校にすることを検討する。

《定時制・通信制》

◆全日制の北条（総合）を改編し、愛媛風早高校（仮称）設置 [R8]

◇昼間の午前と午後を選んで学べる昼間二部定時制（総合）+ 通信制（普通）とし、自由で柔軟な学びの場を提供することで、未来につながる進路を自ら実現できる、新しい形の学校とする。

※大洲肱川（昼間定時制）と松山東（通信）は募集停止。

◆松山南・松山商業を統合 [R8] 校地は松山南

◆松山工業の2学科を集約 [R8]

○ 現状及び前期計画の内容 （定時制）

現状 (R4)				前期計画 (R5~R9)					
学校名	学科	学級	定員	学校名	学科	学級	定員		
川之江	普通	1	40	川之江	普通	1	40		
新居浜西	普通	1	40	新居浜西	普通	1	40		
西条	普通	1	40	西条	普通	1	40		
今治西	普通	1	40	今治西	普通	1	40		
松山南	普通	1	40	愛媛風早 [R8]	総合(昼間)	2	80		
松山工業	工業	2	80		松山南	普通	1	40	
松山商業	商業	1	40	松山南	商業 [R8]	1	40		
肱川(分)	普通(昼間)	1	40	松山工業	工業	1	40		
八幡浜	普通	1	40	八幡浜	普通	1	40		
宇和島東	普通	1	40	宇和島東	普通	1	40		
R4 定員			11	440	R9 定員			11	440

北条

（通信制）

松山東	普通		300	愛媛風早 [R8]	普通		300
-----	----	--	-----	-----------	----	--	-----

○ 後期計画の方向性

【愛媛風早高校（仮称）以外】

入学生数の減少が継続する場合は、募集停止を検討する。

【愛媛風早高校（仮称）】

入学生数の状況により、定員の増減を検討する。

県立学校振興計画総括表（前期計画）

○全日制

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
四国中央					
新居浜		1学級削減	新居浜東(普通6 →普通5・健康スポーツ1)		2学級削減
西条				小松・東予・丹原 →周桑 (普通3・理数情報1) →西条産業科学 (農業1・工業2・商業2・ 家庭1) 1学級削減	
今治 越智		1学級削減	1学級削減	今治西(普通7 →普通6・国際1) 伯方(分)・大三島(分) →しまなみ海洋(総合2) 1学級削減	1学級削減
松山 伊予 上浮穴				北条→愛媛風早(定・通) 東温(普通6・商業2 →総合9) 伊予・砥部(分)→伊予 (普通5・理数情報1・ 工業1) 1学級削減	
大洲 喜多		1学級削減	大洲・大洲農業→大洲 (普通3・農業2・商業1)		
八西 西予		1学級削減		八幡浜・八幡浜工業・川之石 →八幡浜 (普通4・工業1・商業1・ 総合1) 宇和(普通2・農業1 →総合3) 3学級削減	
宇和島 南宇和		宇和島南中等※募集停止 1学級削減	宇和島東・津島(分) →宇和島東 (理普4・商業2) 北宇和・三間(分) →北宇和 (普通2・農業1) 5学級削減		宇和島南中等・宇和島水産 →宇和島南 (総合3・水産2)

○定時制・通信制

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
				北条(全)→愛媛風早 (昼間定時制総合2・ 通信制普通) 松山南・松山商業 →松山南 (普通1・商業1) 松山工業(工業2→1) 肱川(分)※募集停止 松山東(通)※募集停止	

再編整備基準

項目		内容
適正規模		1 学年 3 学級～ 8 学級を基本とする。
地域への配慮		<p>次の①または②に該当する県立高校等について、市町や地域から学校の存続のために必要と思われる支援が得られる県立高校等を、1 市町につき 1 校に限り、特別の統廃合基準を適用する「魅力化推進校」に認定できる。</p> <p>① 同一市町内にある県立高校等が 1 校で、その 1 校が適正規模を下回る。</p> <p>② 同一市町内にある県立高校等が複数で、そのうち 1 校以上が適正規模を下回り、その県立高校等が、次のいずれかに該当する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島しょ部にある県立高校等 ・教育委員会が特別に認める県立高校等
統廃合基準	3 学級以上の学校の募集停止	入学生が 80 人以下の状況が 3 年続き、その後も増える見込みがない場合は、募集停止を行う。 ただし、魅力化推進校として認定する場合は除く。
	魅力化推進校の募集停止	入学生が 30 人以下の状況が 3 年続き、その後も増える見込みがない場合は、募集停止を行う。 (特例) 離島の通学環境を考慮し、弓削高等学校及び松山北高等学校中島分校については、入学生が 20 人未満の状況が 3 年続き、その後も増える見込みがない場合は、募集停止を行う。
	同一地域内における統合等	適正規模を満たしている学校についても、教育環境の向上が期待できる場合は、統合等を検討する。
	市町立への移管	関係市町から、市町立への移管の申し出があった場合は協議する。
	定時制課程の募集停止	入学生数等を踏まえ、個別に検討する。
キャンパス制		統合等を行う際には、一つの校地にまとめることのメリットとデメリットを勘案し、メリットを上回るデメリットがある場合は、複数の校地を活用するキャンパス制を導入する。
入学定員	競争倍率	適度な競争倍率を維持できる定員とする。
	通学区域(普通科)	当面、「通学区域：東・中・南予、区域外の入学者割合：5%」を維持する。
	全国募集	全国募集に係る区域外の入学者割合については、区域内の中学生数等に配慮しながら、拡大の方向で検討する。